いい表情の子を育む



ビブリオバトル（Bibliobattle）という言葉を耳にしたことはありますか。

ビブリオバトルは、「ビブリオ（書籍）」＋「バトル（戦い）」の名の通り、本の魅力を語り合うコミュニケーション型読書会のことです。発表者はそれぞれ自分が推薦する本を公式ルールのもとにプレゼンテーション形式で紹介します。その中で「もっとも読みたくなった本」に選ばれるように競い合うことを特徴としています。

ビブリオバトル公式ルール

1．発表者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2．順番に１人５分間で本を紹介する。
3．それぞれの発表の後に、参加者全員でその発表に関するディスカッションを２～３分間行う。
4．全ての発表が終了した後に、「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が１人１票で行い、最多票を集めた本をチャンプ本とする。

本校でも、授業の中で6年生がビブリオバトル風の「おすすめ本の紹介会」を開催していました。

夏休み前にクラスごとで取り組み、上位3名（3冊）を選出していました。公式ルールを参考にして全員が体験できるよう紹介する時間を2分、ディスカッションする時間を1分にアレンジしたそうです。そして、夏休み明けに各クラス3名ずつ合計9名が、6年生全員の前でおすすめの本を紹介していました。

絵本や図鑑、小説など一人ひとりが本を選び、自分の言葉で本を紹介する姿は目を見張るほどでした。身振り手振りを交えたり、声色を変えたりするなどそれぞれの個性がきらりと光っていました。また、根拠を持って内容を伝えていて、聴いている人を飽きさせない工夫が随所に散りばめられていました。

そして、聴いている6年生も真剣です。「魅力が伝わるか」「伝え方・話し方」「期待感」「熱意」という4つの視点で評価することになっていたからです。一人が本の紹介を終えると、質問をし、その後すぐに評価ポイントについてGIGA端末に入力をしていました。話し手・聴き手の真剣な姿に「さすが6年生」と思ったことを覚えています。また、6年間の学習の積み重ねが生きていると感じることができた瞬間でもありました。

また、積み重ねられた力が発揮された姿は、別のところでも目にすることができました。9月26日に市役所本庁アトリウムにて開かれた「社会を明るくする運動」の発表の場でした。そこには、川崎中学校吹奏楽部の生徒が参加し、練習の成果を発揮していました。卒業生が、何も見ずに自分の言葉で曲や内容を紹介する立派な姿を目にして、本校で培った伝える力は根付いていると実感しました。

子どもたちは、日々の授業の中で、自分の思いや考えを伝えようと取り組んでいます。その時に大事にしているのは、聴き方です。聴き手が話し手を育てるからです。聴き手に大切なのは、自然な反応です。形式的に「いいです」というのではなく、「そうなんだ」「ふ～ん」「えっ」など、その時の思いが自然な言葉になるとよいと考え、日々の教育活動の中で取り組んでいます。

また、話し手には自分の言葉（語彙）を増やしてほしいと願っています。そのためにも本を手に取ってほしいと考えています。

秋分の日を過ぎ、これからは日が落ちてからの時間が伸びていきます。その時間を家読（うちどく）の時間にあててみませんか。そして、家族でお勧めの本を持ち寄って紹介し合ったり、同じ空間で読書を楽しんだりしてみませんか。

校長　山川　佳美